

特にごみの多かった国道443号を入念に清掃する青年部
(商工会青年部提供)



頼れる青年部が清掃を率先

商工会青年部クリーンアップ全国大会

町商工会青年部(山田五郎部長)17人が8月26日、御船中心部の主要幹線道の清掃活動に汗を流しました。これは、商工会法施行50周年の節目に合わせて、全国1,795の商工会青年部が一斉に各地域の清掃活動を行ったものです。本町青年部では、国道445号や同443号、シンボルロード線、本町通りまでの約3kmを清掃。約1時間で、空き缶やペットボトルなどのごみを約10袋分集めました。山田部長は、「これからは、町単独でも清掃活動に取り組みながら、環境面にも力を入れていければ」と意気込みを話していました。

カッパも元気になる御船川に

御船昭和保育園ウナギ放流体験

御船橋下河川敷で8月20日、御船昭和保育園(沖田昌史園長、139人)の園児がウナギの稚魚約500匹を放流しました。緑川漁業協同組合(坂本猛組合長)が緑川流域での魚の繁殖や生息環境の保護を目的に毎年行い、同園の体験は今年で2回目。年長児の下田龍哉くん(滝川)は「ヌルヌルして気持ち悪かったけれど、楽しかった」と目を輝かせていました。また、環境教育にも取り組む沖田園長は「将来、御船川を守る子どもたちを育てるとともに、カッパも元気になるような御船川にしたい」と話していました。



ウナギを御船川へ放流する園児たちと沖田昌史園長

御船を愛した故人送る

夏季慰霊祭・精霊流し

熊本三大精霊流しの一つとして伝わる御船町精霊流しが8月16日、御船橋下河川敷で開催されました。午後7時から始まった夏季慰霊祭では、今年初盆を迎えた遺族などが参列して、故人と過ごした思い出の日々を静かに偲びました。辺りが薄暗くなりはじめたころ、御船川へ万灯ろう約200基と、花や提灯で色鮮やかに装飾された精霊舟25隻が流され、幻想的な光の帯を見送りました。今回、御船の友人を亡くした音楽活動家の高数義則さん(宇城市)がボランティアで出演。「精霊舟」と「千の風になって」の2曲を生演奏し、亡き友人へ歌をささげました。また今年から、町商工会や町観光協会、町文化協会などの団体が「みふね精霊流し保存会」を設立。御船が誇る伝統行事を存続させるために、精霊流しの運営にあたっていました。



御船川に幻想的な光を醸し出した万灯ろう

夢膨らむ新校舎建設に着手

御船小校舎改築安全祈願祭

御船小学校(佐藤公一郎校長、328人)の校舎改築安全祈願祭が8月12日、同小グラウンドで開催されました。同小校舎は、昭和42年3月に落成し、町内の学校施設では最も古い建物です。そのため、校舎の老朽化や耐震問題が指摘されていました。そこで平成21年5月、建設検討委員会を設置して、校舎改築を本格的に協議。基本計画や実施設計を審議後、平成22年7月議会で校舎改築が承認されました。構造は、鉄鋼造二階建て、延べ床面積3,610平方メートル。建築費は校舎本体や機械設備、電気設備の総額約8億8,300万円です。祈願祭では、発注者を代表して山本孝二町長が「今年度と、来年度に向けての2か年事業で立派な(校舎)建設をしていただきたい」とあいさつを述べました。工期は、平成22年7月～平成24年1月までの予定です。



工事の安全を祈り、クワ入れ儀を代表で行う佐藤公一郎校長

「ビエント」の優しい演奏とたいまつ明かりに包み込まれた会場



どこまでも広がる自然舞台

ふれあい夏祭り

壮大な吉無田高原の魅力を発信する「第9回ふれあい夏祭り」(田代東部公民館活性化委員会主催)が8月1日、緑の村で開催されました。大自然を舞台にした会場では、人気沸騰中の「よさこい・肥後小巻組」や地域住民のひょっとこ踊りなど、地元の人にこだわったステージショーの数々。陽が落ち始めると、竹で作った約500個のたいまつに火が灯され、幻想的な空間が辺りを包み込みました。高松秀行会長は「最近では地域外からの参加者も増えています。町全体で協力しながら吉無田をPRしていければ」と話していました。

昔から代々継がれる夜祭り

みふね地蔵祭り

みふね地蔵祭り(御船町商工会主催)が8月23、24日の両日、本町通りで開催されました。元々、江戸時代の中ごろに、子どもたちの成長と商売繁盛を祈ってはじめられた伝統ある夜祭り。通りには御仮屋が立ち並び主役のお地蔵さまが出座。地域住民手作りのタコのパウルくんやアニメ・ワンピースのチョッパーなど、8基の造り物が飾られ見物客の目を楽しませました。歩行者天国となったメイン会場の商工会前では、キッズダンスや御船高校生の似顔絵コーナーなどもあって若い力で祭りを盛り上げていました。



人気を集めた御船高校芸術コース美術専攻生の似顔絵コーナー